

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭福祉	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 相馬 行男	当該科目に関する実務経験 小学校教員及び児童福祉施設指導員・相談員
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 現代社会におけるこども家庭福祉の意義・役割等を明らかにする。 ・ 保護者と連携した「子どもの育ちの支援」のため、子ども家庭福祉の知識と現状・課題等を深く理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ こども家庭福祉の意義・役割等についての理解を深めることができる。 ・ 保護者と連携した「子どもの育ちの支援」に要する知識と専門性を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 子どもと家庭を取り巻く今日の状況 (少子化、貧困、児童虐待、DV) 2. 子ども家庭福祉とは (子どもとは何か、子ども家庭福祉の考え方、子どもの権利) 3. 子ども家庭福祉のあゆみとこれからの課題 4. 子ども家庭福祉に関する法制度と実施機関 5. 保育サービスと地域子育て支援 6. 母子の健康と子育て支援サービス 7. 障がいのある子どもへの福祉サービス 8. 子どもの健全育成とは 9. 社会的養護とは何か 10. 少年非行 11. ひとり親家庭への支援 12. 外国籍の子どもへの支援 13. 学校での子どもたちへの支援 14. 保育現場における子ども家庭福祉相談援助活動 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] ・ 知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉[第4版] (流石智子 監修／教育情報出版)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			